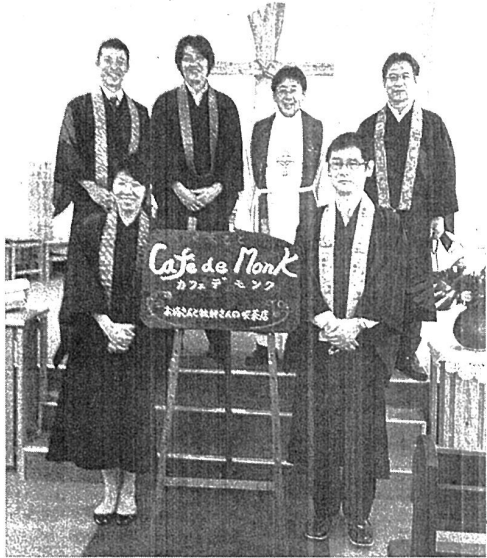


臨床宗教師会九州支部



「Cafe de Monk」が九州に初上陸する

臨床宗教師会九州支部

は10月4日、熊本市中央区の日本福音ルーテル大江教会で「くまもと Cafe de Monk

ワークショップ的な位置付けで開催した。東北では法衣を着用しないが、

浄土真宗本願寺派の松隈英明さんも「不安もあるが、まずはやってみなければ始まらない。走りながら改善していきたい」と、確かな手応えを感じ、意欲を燃やしていた。

カフエ・デ・モンク始動 地元の声聴き試行錯誤

熊本

「お坊さんと牧師さんの喫茶店」の体験説明会を開いた。東日本大震災の被災地で超宗派の宗教者らが仮設住宅を巡り、被災者の心に寄り添ってきた傾聴喫茶が、ついに九州に上陸する。

熊本の人に「布教や教えの押し付けではなく、聞き上手になり、悩む人の苦しみや悲嘆に寄り添う」という「Cafe de Monk」の理念を知ってもらうために、

実験的に臨床宗教師全員がそれぞれの法衣姿で実践。参加者から、肯定的

な意見が多数あった。「被災という共通の課題が無く、比較的都市部で行うので東北とは少し違う要素があるが、人が生きていく中で苦悩は絶えないもの。熊本で暮らす人々が、何を求めているのかを感じながら活動内容を模索することは、その地に生きる人に寄り添うことの実践であり、モンク（悶苦）することでもある」と同支部代表の吉尾大生・真宗大谷派淨玄寺住職は語る。

仮設住宅を巡る東北とは異なり「宗教施設で待ちの形態」、そして「地域での共通苦難がない状態」であり、試行錯誤しながら「Cafe de Monk」を九州独自の姿にしていこうとしている。被災地での宗教者の活動から生まれた傾聴喫茶が、九州の地で花開きこころの輪を広げていくことが願われている。

2回目の体験説明会は11月29日の午後2時から、同教会で開催。案内の範囲を広げ、日ごろ宗教に縁が無い人たちにも参加してもらう。

（九州 糸山公照・臨床宗教師、光照寺副住職）